

2025 年 9 月 30 日

ニュースリリース

ジェットスター・ジャパン株式会社

## 2025 年度決算について

- 2025 年 6 月期の営業収入は過去最高の 749 億 4,000 万円
- 営業利益は過去最高の 15 億 7,800 万円
- 平均搭乗率は前年度比 1.4 ポイント増の 87.8%で過去最高

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:田中正和)は、2025 年 6 月期決算(2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)を取りまとめましたのでお知らせします。

2025 年 6 月期(当期)の営業収入は 749 億 4,000 万円(前年は 707 億 7,200 万円)、営業利益は 15 億 7,800 万円(前年は 13 億 3,000 万の損失)で、ともに過去最高となりました。

一方で、急激な為替変動や機材計画の変更に伴う費用を営業外項目として計上した影響などで、当期の純損失は 15 億 4,300 万円(前年は 5 億 700 万円の純利益)となりました。

当期の総搭乗者数(有償ベース)は、561.0 万人(前年は 566.2 万人)、年間平均搭乗率は 87.8%と過去最高を記録し(前年は 86.4%)、定時運航率は 76.8%(前年は 81.1%)でした。

国際線においては、関西＝台北路線、成田＝マニラ路線をそれぞれ 1 日 1 往復から 2 往復に増便したほか、エアバス A321LR を国際線に投入することで提供座席数を増やし、旺盛なインバウンド需要に対応するとともにお客さまの利便性を向上しました。

また、昨年 11 月には、ジェットスター・ジャパンを含むジェットスターグループ全体の客室乗務員(キャビンクルー)、運航乗務員(パイロット)、空港地上職スタッフが着用する制服を 20 年ぶりに刷新しました。これに続き、昨年末には客室乗務員向け訓練施設を成田空港内に移転し、客室乗務員をはじめとする訓練参加者の利便性を高めました。

ジェットスター・ジャパンは今後も路線網の拡充を図り、各地域間の交流や観光の活性化に貢献できるよう、お客さまの安全・安心を第一に、低運賃でより気軽な空の旅を提供してまいります。

**【ジェットスター・ジャパンについて】**

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012 年 7 月より日本国内線、2015 年 2 月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内 15 都市・海外 3 都市に就航し、国内線 18 路線・国際線 4 路線を運航中。就航から累計 5,500 万人以上のお客さまにご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>